

(件名) 岩盤力学委員会 特別小委員会 岩盤工学を語る会 (第2回)

日 時： 平成16年 4月 7日 (水) 14:00 ~ 17:35

場 所： 土木学会 C,D 会議室

出席者： 大西委員長 (京都大学)、西脇副委員長 (東電設計)、清水幹事長 (山口大学)、市川小委員長 (名古屋大学)、吉田 (東電設計)、近久 (飛島)、清木 (宇都宮大学)、小杉 (産総研)、山口 (土研)、大津 (京都大学)、日比谷 (鹿島)、橋本 (東電)、羽鳥 (原環機構)、堀 (電源開発)、水谷 (先端建設技術センター)、岡田 (電中研)、武内 (大林)、真下 (土研)、南 (東電)、森岡 (サイクル機構)、井上 (前田)、太田 (鉄道総研)、石塚 (清水)、福原 (電源開発)、亀村 (大成)、三浦 (中部電力)、鈴木 (北海道電力)、鶴田 (九州電力)、西村 (ハザマ)、青木 (大成)、佐藤 (サイクル機構)、橋本 (関西電力)、瀬岡 (関西電力)、宇野 (東電設計) 敬称略・順不同

議 題：

1. 趣旨説明 (西脇副委員長)
2. 岩盤工学に深く関わる地質要素 (吉田氏)
3. 奥美濃発電所 (三浦氏)
4. 奥多々良木発電所 (橋本氏、瀬岡氏)
5. 今後の活動に関する討論 (全員)

活動状況：岩盤工学に関する話題提供を3件説明して頂き、その後、全員で今後の岩盤工学における学会活動の活性化方策について討論した。具体的な論点の概要を以下に示す。

- ・ 岩盤工学を活性化させるにはプロジェクトが必要であり、海外展開も視野に入れて、マーケットニーズを捉えた上でのコストの議論が重要である。
- ・ 岩盤プロジェクトは経験が少ないので最適化できない可能性があり、その仕組み作りが必要である。
- ・ 岩盤工学が世間一般からどう見えているかを意識することも重要ではないか。積極的に社会に語りかけるべきではとも考える。
- ・ 技術ノウハウはお金そのものである。もともと、ゼネコンの仕事はソフトそのものであり、大学も含めて、日本ではソフトで稼ぐモデルを模索する必要がある。
- ・ コストの問題は活性化のためにも重要であるが、別の観点では施設のアセットマネジメントも今後は重要になるものと考えている。
- ・ JRでは災害が多くなってきているが、岩盤だけでなく施設全体として捉えたりリスクマネジメントが重要であると認識している。
- ・ 本日出席の人のみでなく、フィールドの人たちにも発信していく必要がある。

活性化のためにはマーケットの創出、社会への発信、技術の体系化、知的財産を活用したビジネスモデルの構築が重要と考えており、今後も引き続き皆様のご協力をお願いしたい。